

そだちサポートプロジェクト

令和6年度 第2回 そだサポ研修&交流会

令和6年9月6日（金） 18:30 ~ 20:20

○ 参加事業所：

奄美市（2）

にこびあ、のぞみ園、

瀬戸内町（2）

ここ園、みらいはうす

龍郷町（2）

愛かな、聖隷かがやき

与論町（1）

ほのぼの

鹿児島（4）

おひさま、スクラム、

のびのびパレット

もりのね

オブザーバー（4）

住田氏（国分西小）、東畑氏（名瀬小）、渋谷氏（大島特別支援学校）、林氏（大島特別支援学校 徳之島支援教室）

朝沼氏（臨床心理士）

講師/事務局

今村氏、高橋氏（鹿児島大）、福崎（ぴあリンク奄美）

合計 51名



1.各事業所自己紹介

2.ミニ研修（別紙資料）

「放課後等デイサービスガイドライン改定のポイント」

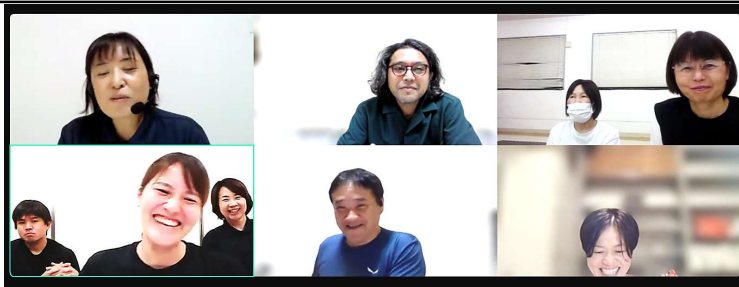
「子どもの話を聴くために」

<p>鹿児島大学大学院 臨床心理研究科</p> <p>准教授 高橋 佳代 氏 准教授 今村 智佳子 氏</p>	<p>2024.9.6 そだサポ研委会</p> <p>知っておけば怖くない最近の動向をチェック＆ 日々の支援を充実化するために</p> <p>○放課後等デイサービスガイドライン 改訂のポイント ○子どもの話を聴くために</p> <p>鹿児島大学 高橋佳代 今村智佳子</p>	
	<p>知っておけば怖くない最近の動向をチェック＆ 日々の支援を充実化するために</p> <p>○子どもの話を聴くために</p>	

3.交流会（意見交換及び質疑応答）

【1G】

- 聖隸かがやき
- もりのね
- おひさま
- 東畑氏（名瀬小）
- 住田氏（国分西小）



○メンタルヘルスの課題について

・アドバイス：思春期の問題行動（事象、他害、性的逸脱行為など）への対応は、保護者や他の機関とも連携して支援していくことが大切。（連携先として、医療機関などとの繋がりも視野にいれていく）

・意見：福祉と医療の連携として、地域の医療機関や県療育センターなどと繋がり、月1回程度通院している事例もある。

○課題があった時の取り組みについて

・情報提供：「日常的に取り組んでおくこと」と「緊急的に何かあった時に取り組むこと」の二つがあり、学校での生徒指導の考え方と似ている。生徒指導提要の中に2軸3類4層という仕分がされており、参考になると思う。

※参考HP：鳥取県 西部教育局 令和4年2月号 (<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1311955/2gatu3640.pdf>)

○その他

・意見：祖父母の支援について。保護者（父母）どちらかにも特性があった時に祖父母が家庭全体を支援している場合があるが、その際、祖父母に対して、保護者が「自分は親である」と言う自尊心を大切にもらえるような関わりをしてもらうように働きかける。

・研修感想：放デイガイドラインの考え方として、外からみえない心の内面を大切にするという視点が入っているというところがすごく関心が持てた。

・意見：非認知能力を意識した支援を療育の支援者は大切にしていると感じる。（もっと学校などにもアピールしてよいのではないか。）

【2G】

- にこびあ
- 愛かな
- ここ園
- のびのびパレット
- ほのぼの
- 林氏（大島特支徳之島）



○「片づけたくない」という子どもへの対応について

・意見：遊びの余韻を残す（図工やブロックなどの遊びの場合、そのままにして、次その状態から遊びをスタートさせる）という考え方

⇒アドバイス：「帰りたいというほど楽しかったね」という風に、子どもたちの心情に寄り添った声掛けやアプローチをしていくことも大切。

○子どもたちと個別で話をする時間はどうとっているか

・意見：1対1だと緊張したり、ふざけてしまうこともあるため「遊びの中で話す」「送迎車の中で話す場面を作る」などの対応を行っている。

○子ども主体性について

・意見：集団に入りたがらない（入れない）子どもを、支援者として遊びの輪の中に入れようと支援することは、主体性の考え方として本人の主体性に寄り添っていないと考えられるのでは。

⇒アドバイス：入るか入らないかという視点よりも、「活動への参加」の枠を拡げ、本人なりに出来ることを選んでもらうということも、主体性を大切にすることになるのでは。

○自傷行為がある思春期の子どもとのやり取りについて

・アドバイス：自傷行為に対する気持ちを聞いても、大人が答えてほしい回答をしていると言うように感じられる子どもに対して、「気持ちの選択肢を与える」という方法がある。

○集団活動で一斉指示が入らない子どもへの対応について

・意見：1対1で伝える時間を設けている。（複数あり）

【3G】

- のぞみ園
- みらいはうす
- スクラム
- 渋谷氏（大島特支）
- 朝沼氏（奄美市SC）



○研修感想 事故効力感、自己肯定感を大切にするための体的な関りについて

- ・感想：子どもたちの思いをしっかり受け止めて日々の療育に生かしていきたい・
- ・意見：学校の立場として今回の研修に参加したことで、放デイで行っている取り組みについて理解することができた。
- ・感想：「育ちの連続性」を意識した支援を日々自分が行えているのかと改めて考える機会になった。
- ・感想：研修内で説明された「アイメッセージ」などを意識しながら、子どもが話したいと思ってもらえるような支援者になりたい。

○こちらがさせたい活動に子どもが乗り気でない場合のアプローチについて

- ・感想：まずは自分がその遊びを楽しむようにしていきたい。

4.まとめ（高橋氏/今村氏）

・子どもたちの自尊心と主体性を支えていくためには、大人も「気持ち動く」ということを意識しておくことが大切。支援者自身も自分の気持ちを大切にしながら進んでいけたらと思う。

・参加者がいろんな意見を言えて、その意見に対して他の人が前向きなコメントを返すというこの会の形式や関りは、支援者にとっての「自分の意見を表明出来る場」「他の人からも受け入れられる場」になっていると感じている。このような場面が積み重なると、「自分の意見を言うことは怖くない」という意識が高まり、「ちょっと思いついたことを言ってみよう」ということにつながると思う。子供たちにもそのようなことを伝えることができるように、支援者自身が前向きな体験ができている、この場を大切にしていきたい。